

玄界灘のケンサキイカ漁場形成における対馬暖流の影響

安藤 朗彦¹・中田 英昭²・石坂 丞二³

(¹研究部・²長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科・³名古屋大学地球水循環研究センター)

対馬暖流のケンサキイカ漁業への影響を調べるために、九州北部沿岸で2000-2005年の4月と11月のケンサキイカの漁獲状況と衛星による海面水温分布の関連について検討した。ケンサキイカはそれぞれの月で限られた海面水温の海域で漁獲され、4月と11月では漁場の水温範囲は全く異なっていた。ケンサキイカの日別漁獲量で加重平均して得た日別加重平均漁獲位置は、4月は集中して分布するパターンと広範囲に分散するパターンに大別されたが、11月は全て集中分布していた。月平均の衛星海面水温分布の解析結果から、4月の対馬暖流の玄界灘への流入状況は接岸パターンと離岸パターンに大別され

たが、上記の平均漁獲位置のパターンとは一致していなかった。4月の漁場水温はケンサキイカの産卵適水温であり、対馬暖流の流入により産卵適水温の海域が狭まる年には狭い海域に漁場が集中し、産卵適水温の海域が広がる年には広い海域に漁場が分散するものと考えられた。一方、11月の漁場は沖ノ島周辺に形成され、産卵適水温との関連は見られなかった。以上のことから、対馬暖流の玄界灘への流入状況は、水温条件を通して、主に産卵期のケンサキイカ漁場形成に影響を及ぼすことが分かった。

水産海洋研究第77号(2), 83-91(2013)

